

かれんと

No.33

2008.9.25

Current:カレント

時代の流れあるいは
新しい潮流

踏み出そう…一歩前へ

ちよつと外に出てみませんか？

家の中でテレビを見たり、本を読んだり、庭の草むしりをしたり、好きなことに没頭している時間は、あつという間に過ぎていくものです。

ほっとホーム・ほっとサロン…

支え合う地域の笑顔

そこにはあなたを待っている人がきつといるはずですよ。

主な内容

- ・ 踏み出そう…一歩前へ
- ・ 仲間と笑う
「ほっとサロン
よつば会(下永野)」
- ・ 世代を超えて
「ほっとホーム津田」
- ・ 取材を終えて
- ・ 男女共同参画社会づくり
事業報告
- ・ ひとくちメモ
- ・ お気に入りBook
- ・ 編集後記



※「かれんと」は、ボランティア編集員が担当し、作成しています。

仲間と笑う

ほっとサロン

「よつば会(下永野)」

このサロンは、麻畑に囲まれた田園の中にあります。

午後1時30分、永野生活改善センターに人が集まってきました。徒歩や自転車、近所同士で車に乗りなど、方法はさまざまです。

この日は月一回開催されるほっとサロンの日です。



民生委員を中心ほっとサロンがスタートし、毎月第3水曜日に転倒予防を目的とした活動が行われています。

参加した人たちは「前日に電話が来るんです。明日待ってますから：とね」「カレンダーに丸をつけています。毎月の楽しみです」「近いから来られるのよ」と笑顔がこぼれます。

この日参加したのは男性5人女性15人援助員2人の計22人です。年齢は60〜90歳代とさまざまで、97歳男性の元気な姿もありました。

最初は準備運動からです。自分のペースで決して無理はしません。「自立した生活を続けるためには健康であることと、体力を持続させることが重要。自分の体と向き合いながらみんなで体操すると自然に体が動きますよ」と援助員さん。

次に「なかよし音頭」に合わせて歌いながらの運動です。手足を動かすより歌の方が得意な男性もいて、曲に合わせた大きな歌声が笑いを誘う一幕もありました。

「最近みんな集まることも少ないけど、ここに来れば話もできるし心も体も元気になるよ。仲間が一緒だからね」「何か楽しみが無いとなあ。みんな集うことが元気の源だよ」と話してくれました。休憩をはさみながら楽しい会話も弾みます。



▲準備運動からスタート

続いて柔らかいボールを使ったゲームです。椅子に座ったまま輪になって3個のボールを蹴り合います。2個が同時に飛んできたりと大変ですが、男女・年齢に関係なくみんなが「ほくら、〇〇ちゃん行くよ」「△ちゃん、ほくら、来た、来た」と声を掛け合っており、とてもにぎやかに過ごしていました。知らず知らず体動き、体への負担を考えたゲームのアイディアにも驚きました。

最後はジャンケンゲームです。掛け声と共に笑い声が響きます。援助員さんから恥ずかしそうに景品を受け取る姿が印象的でした。楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。

ここで過ごす時間は地域の仲間にあえる喜びと元気パワーを充電する場所にもなっているようです。

代表者の大森さんは「活動に参加したいという人がいても、常に定員一杯で受け入れられない。もう1か所開設できたら多くの人たちにもこのような機会を体験してもらえるのに」と話していました。



▲自転車や徒歩でセンターに集まる



▲ボールを使ったゲーム

世代を超えて

「ほっとホーム津田」

耳を澄ますと子どもたちの声が聞こえてきます。そこは小学校の校庭。元気に走り回る子どもたちの姿が目飛び込んできます。

ほっとホーム津田は小学校に隣接して建っていることもあり、子どもたちとの交流が行われている。珍しいほっとホームです。ここは、引きこもりを作らない、仲間作り、体力・健康の維持を目的として開設されました。



▲ビンゴゲームで大当たり

取材した日の午前中は水墨画を楽しみ、午後からは小学生との交流が行われました。

昼休み、1年生から6年生までの9人が、先生と一緒に照れくさそうにホームに入ってきました。まず、自己紹介から始まり、この日はビンゴゲームを楽しみました。「アルファベットのBってこれ?」「3がどればいいの、なかなかでないね」と、寄り添って会話している様子は、まるで本当のおじいちゃん・おばあちゃんとお孫さんのようです。それぞれに「楽しかった」と言いながら「今日のことを家に帰ったら、お母さんにお話しするの」と帰っていききました。

交流活動は、学習発表会の際に利用者の作品を展示したり、昔の遊び(けんだま・竹馬・おはじきなど)を教えるようになったりと、徐々にその輪が広がっていききました。

開設日は、毎週火・木・土曜日です。この運営に携わっている援助員は30人(男3人、女27人)みなさん自主的に参加しています。1日に2人ずつの交代制となっていていますが、お話をしながら自分たちも一緒に行事やゲームにも参加し、1日がとても楽しいといえます。

「今でも俳句・輪投げ・生け花など、いろいろな行事があります。今後は指先や頭を使うマジックも取り入れていきたい」と、利用者も交えての意見交換が行われていました。



▲水墨画を楽しむ

ここではいろいろな事に挑戦でき、何より楽しい出会いがあります。この日利用していた人たちの顔も喜びに輝いていました。代表の林さんは「利用者の意見を聞きながら、どうしたら喜んでもらえるかを考えて運営しています。そして今後地域住民のみならず、気楽に1人でも多く利用していただけるようにするのが課題です」と話していました。

取材を終えて

近年、近所付き合いが希薄になりみんなが集うことが少なくなりました。でも周囲を見渡してみると、そこには集う場所があり、それを支える人、世代を超えた交流などがありました。

ここで出会った人々には、地域の仲間と共に生き、お互いを、たたえあう姿がありました。

笑顔の仲間に出会うため
「踏み出そう...一歩前へ」

ほっとホーム

ほっとサロンとは

おおむね60歳以上の人が、利用者同士の交流・レクリエーションなど気軽に利用できる場所です。

「福祉のお役立ち情報」より



▲7月18日 東大芦地区

▲7月17日 粕尾地区

▲7月16日 粟野地区

▲7月15日 菊沢地区

地域セッション

開催される

平成19年にスタートした地域セッションは、地域住民を対象に、その地区のコミュニティセンター等を会場に「男女共同参画社会づくり」について理解していただくための学習会です。今年度は、菊沢・粟野・粕尾・東大芦4地区で開催されました。(市内17地区を5か年で一巡させて実施します)

各地区自治会協議会のご協力で予想以上の参加者数でした。県総合教育センターや上都賀教育事務所の先生から「地域で自分らしく、いきいきと生きるために」のテーマで講話を聴いた後、それを基に話し合い、男女共同参画についての理解を深めました。「性別による固定的な役割分担意識がある」「女性校長が増えたから男女は平等だ」等の意見が出た一方で「家庭内にも男女共同参画が必要と気づいた」との発言もあり、参加者自身の問題として考えられた意義のある学習会となりました。



男女共同参画フォーラム

仕事中心のライフスタイルを見直そう！
心豊かに、わたしの生き方

7月26日(土)市民情報センター15階マルチメディアホールにおいて、市内下沢を拠点に活動している人形劇団『くぐつ』代表小川守さんの講演と、創作人形劇の公演を鑑賞しました。

「もっと身近に、楽しい、生の舞台を！」の合言葉で劇団を旗揚げして以来23年間「ずっと仕事中心の生活だった」と戸惑いながら話す小川さんでしたが、夢のある舞台づくりが、地域づくりへつながる、という強い思いが直に伝わってきました。

舞台の上では、配偶者のみちこさんと息の合った人形さばきを披露し、観客を魅了しました。



ひとくちメモ

コミュニティ・ガバナンス

地域コミュニティにおける市民をはじめとした地域構成員間の信頼とネットワークの密度を意味するソーシャルキャピタル、地域における問題解決能力を意味する問題解決力と並び、地域力の構成要素のひとつとして考えられる。

「フリー百科辞典・ウィキペディア」より

お気に入りBook



「赤毛のアン」

ルーシー・モード・モンゴメリ作
掛川恭子訳
発行所 (株)講談社

今年は出版100周年。

舞台は、自然の美しいカナダのプリンスエドワード島。持ち前の好奇心を発揮するあまり、いろいろなハプニングを引き起こしながらも、心優しい女性へと成長していくアン。

アンと一緒に泣いたり笑ったり、子どもはもちろん、大人になって読み返しても、魅力的な登場人物に心を揺り動かされ、奥深い味わいがあります。

編集後記

・「ほっと」できる場所が近所にあつたらステキです。

・たくさん笑顔に出会い元気パワーをいただきました。(黒ちゃん)

・8年ぶりの復帰です。新規一転、初心に返って頑張ります。(みかん)

・笑ってしゃべって運動、運動。これぞ健康の秘訣なり。(とんとん)

・迷カメラマン語る「おじいちゃん、おばあちゃん、そして子どもたちの目は輝いていた」(めだか)

(くに)